

【ポスターセッションの場合のみ記入 9pt 明朝・左端揃】

保育所におけるソーシャルワーク機能の実態とこれから —保育所保育士の業務分析をもとに—

○ 聖和短期大学 氏名 前田 佳代子 (007725)

竹之下典祥 (京都文教短期大学・005700) 種村 理太郎 ((社福)キリスト教ミード社会館・007198)

キーワード：保育所, ソーシャルワーク機能, 保育士業務

1. 研究目的

昨今の保育ニーズの多様化の背景には、家庭の在り方が変容したことがあげられる。親の在り方が変化したことにより子どもの在り方も変化し、そのため親と子どもの関係性も変化した。これらの保育ニーズに対して保育所は「保育」という専門性をを用いた対応を行っている。また時にはソーシャルワークの機能やカウンセリングの機能を用いた支援を行っている現状がある。特にベテラン保育士にはソーシャルワーク的な働き（支援）が日常的に求められており、保護者や家族支援、地域への働きかけと連携などが業務上不可欠になってきている。またこの「保育の周辺業務」（在園児や地域への子育て支援機能、相談助言といったソーシャルワーク的な機能）は、児童福祉法や保育所保育指針が示すように社会的な枠組として、保育所保育士に対して求められている。

多様化するニーズ対応のために、保育所は多岐にわたる機能強化が求められおり、その一つであるソーシャルワーク的な機能は保育士業務を多忙化・複雑化させている。本研究（セッション）では、保育士が子ども・家庭支援の役割をどのように担っているのかその実態を明らかにした上で、保育所における保育の範囲とはどこにあるのか、児童福祉施設としての保育所の限界はどこに置くべきなのかについて検討したい。

2. 研究の視点および方法

視点：保育所における子どもや家庭への支援の実態を調査から明らかにした上で、「保育士とソーシャルワーク」の視点で保育業務を整理し、今後の保育所保育士が担うべき役割について考察したい。

方法：本研究に先駆けて先行調査を実施。内容は、保育士の一日の業務内容（保育及び他の業務）について実務時間（タイムライン）調査であった。分析結果より、保育士は業務時間の多くもしくはほとんどを子どもへの「保育」に充てていることがわかった。また、職位（施設長・主任保育士など）によってはソーシャルワーク的な業務を行う時間が見て取れた（全国保育士養成協議会第51回研究大会にて発表）。

本調査は先行調査の結果を受けて、調査実施園の施設長・主任保育士2名を対象に、質問項目に従って半構造化インタビューを実施した。インタビュアーは2名とした。期間は2012年6月。インタビューでは、保育所が行うソーシャルワーク機能を生かした子ども支

援について、質問項目にとらわれず自由に述べてもらい、その内容を分類整理した。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会「研究倫理指針」に基づき次のように配慮した。調査園に対しては、事前に本研究の主旨を示した依頼文を作成し、調査園及び保護者に対して送付し同意を得ている。同様に、ICレコーダーによる録音と逐語録の作成について同意を得ている。また、調査に際しては、個人情報・園情報の取り扱い方や研究倫理を示し、書面にて同意を確認した。研究結果の公表にあたっては、関係者に内容を確認していただき了解を得た。

4. 研究結果

調査結果の概要は以下のようであった。(調査は今後も継続して行う予定である。)

質① 保育士の業務とは：保育である。保育士は常に質の高い保育を提供したいと望む。

質② 多様化する支援について：施設長・主任保育士・リーダーなどが行うことが多い。担任は担当クラスの保育を行う責任があるためクラス（集団保育）から離れにくい。

質③ ソーシャルワーク的機能について：すべての子どもの最善の利益となる保育を求めれば、特別な支援が必要な子ども・家庭への支援は不可欠になる。保育所内で取り組む課題と他機関との連携が必要な課題を整理し、後者にはそれに適する社会資源の利用・連携や人的資源としてのソーシャルワーカーとの連携が望まれる。制度としても整えてほしい。

質④ その他：保育所の子育て支援担当職員や主任保育士などには、ソーシャルワークの知識や技術を身につけるための研修を行う必要がある。

5. 考察

本調査を終えて保護者への支援は3つのタイプに分類できた。①保護者とのパートナーシップに基づいた育児の協力関係、②保育所の特性を生かした育児相談等、③社会資源との連携による支援である。②③では、施設長や保育士が保育所の役割としての限界を感じつつも、過大な支援を行っている現実があることも浮き彫りになった。それは、目の前に子どもがおれば困難事例であっても解決に向けて動かざるを得ない児童福祉施設としての立ち位置であり、保育士の責任感によるものだと思われた。しかし保育所保育士の専門性は「保育」に依拠する。保育所の限界を見極め、外部の専門職種に支援を委ねることも必要となる。それによって保育業務をスリム化させることが多忙化・複雑化を防ぐことにもなると考える。

また、機能強化には人的配置が不可欠である。栄養士・看護師・社会福祉士・心理士などの専門職が配置され、チーム保育が行えることで、保育所は「保育」と地域の児童福祉の実践の場となれる。また、保育所と社会資源とを繋ぐソーシャルワーカーが外部機関に存在することも大切である。このような社会的な仕組み作りが最も望まれるところである。